

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和元年11月13日（水） 午後7時00分から午後9時00分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 201、202、203会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 鈴木誠、中村昭典、水内智英、松浦英幸、寺沢有規、石田要、中濱友子、佐々木かなめ、畑竜介
 - (2) 執行機関 市長、鈴木経営部長、井出企画広報課長、小枝企画広報課統括主査、安藤企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査補、熊澤企画広報課主事、中柴企画広報課主事
- 5 議題
 - 【審議事項】
 - ・「いいね！いぬやま総合戦略」改訂方針について
 - 【協議事項】
 - ・改訂後の「いいね！いぬやま総合戦略」に掲載する内容について
- 6 傍聴人の数
1人
- 7 内容
 - (1) 開会

事務局	みなさん、こんばんは。本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より「令和元年度第1回犬山市総合計画審議会」を始めさせていただきます。 本日の進行は、企画広報課の井出が務めさせていただきますので、よろしく願いします。まず始めに、犬山市長 山田拓郎より、ごあいさつ申し上げます。
-----	---

(2) あいさつ

市長	皆さん、こんばんは。大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。総合計画審議会ということで、総合戦略の見直しに伴って、皆さんに諮問をさせていただくわけですが、総合戦略、総合計画、非常にお役所的な計画ではありませんけれど、しかし、将来に向けての重要な戦略であり、計画であるわけです。世の中です、以前は10年ひと昔ということでしたけども、今や世の中の変化のスピードも速くて、最近では3年ひと昔と。もう1年経ったら色々なことがどんどん変わってい
----	---

	<p>っているというような状況で、こうした戦略も、当然そういったことを見据えながら、当時の皆さんが知恵を絞っているんな議論を重ねてこの形ができているわけですが、時の変化をしっかりとらえながら、しっかり時点修正をしたり、あるいはさらにプラスαしたり、そういったことを折々にしっかりやっていくということ、また、しっかりPDCA（プラン・ドゥー・チェック・アクション）、これをしっかり回していくということが大事なことで、我々行政としても、これはいつも言っていますが、作って終わりの計画ではなくて、生きた戦略、生きた計画として具体的に事業として展開をしていくということが大事で、さらにはその成果をしっかり検証して、次につなげる。これを、絶えず、わたくしの方としても、進めていくためにも、我々だけでそれを進めるのではなくて、いろんな知識、見識、経験をもった皆さんに、幅広い観点からご議論いただきながら、皆さんとともにそういった点を考えていきたいと思っていますので、今日からの会議、ぜひ皆様方にご意見をいただきながら、ご指導賜りますことをよろしくお願い申し上げます。私からのあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>改めまして、皆さん、こんばんは。今日が第1回目の犬山市総合計画審議会、これまでの総合計画の策定、見直しに留まらず、総合戦略の非常に重要な部分をここに組み込んで、もう一度見直しをしていく非常に重要な作業になります。その重要さというのはどこで感じ取ったらいいのか、というのを常々考える訳ですけど、私、今日名鉄でこちらに参りましたけれども、豊橋から乗って、名古屋を経て、お客さんが乗って、そして犬山で降りるときに皆さんが一息をつかれたり、今まで緊張していた顔がほだけて、疲れがどっと出ているような顔をしたりして、家路に急がれるときに、決して下を向くのではなく、足早に帰って早く体を休めたい、あるいは子ども達と話したい、身体をゆっくり休めて明日元氣よく出勤あるいは通学したい。色々な思いを持って生活をしている、その日々の息づかいというものをなるべく感じながら、こういった会議には出るようにしています。今日犬山で出会った方々、そしてまた明日犬山を立って、色々なところで仕事や勉強に励む人達、そういった人達が日々、単純ではあるかもしれないけれど、安心して安全に暮らしを続けていけるような、そういう基礎となる計画づくり、戦略作りがこの仕事ではないかと思っています。一見すると当たり前のことを議論している、突拍子もないような提案は出ないかもしれないけれど、多くの犬山市民の皆さんの、安定した生活を作り上げていく、とても重要な基盤、基礎であると私は理解しています。皆さんはそれ以上に地縁のお考えを持っていると思います。今日はそういう思いをもとにして、皆さんと真摯な議論をしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の会議につきましては、お手元の次第に従って進めさせていただき、概ね2時間程度、午後9時に終了とさせていただきます。なお、本日は、委員総数14名のうち、現在のところ8名、中濱委員については遅れて出席されると伺っております。嶋田委員、藤岡委員、高橋委員、中村貴文委員については、どうしてもご都合が悪くご欠席とのご連絡をいただいております。会議を開催するにあたり、「犬山市総合計画審議会設置条例」第6条第2項に基づき、出席者が過半数を超えておりますので、本会は成立いたしましたことをご報告いたします。</p> <p>また、上村委員が市議会議員としての任期を満了されたことに伴い、新たに畑市議会議員に本会議の委員を委嘱しましたので、報告させていただきます。</p> <p>また、ご案内となりますが、本審議会は、「犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン」に基づき、公開とさせていただきます。併せて、後日、会議</p>

	<p>録も公開とさせていただきますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。会議録につきましては、事務局で作成したものに、会長の指名する2名以上の署名をいただくこととなっています。事前に会長と打ち合わせをしまして、本日の会議録への署名は水内委員と松浦委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>(資料確認)</p>
--	--

(3) 諮問

(4) 議事

① 審議事項

鈴木会長	<p>それでは、さっそく始めて参りたいと思います。全国の自治体で、地方創生総合戦略の見直しを行っています。犬山においても自治体に則した、しっかりと実現性を深めていくための計画の見直しをこれから図っていくこととなります。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、最初に審議事項の『「いいね！いぬやま総合戦略」改訂方針について』、事務局から説明してください。</p>
事務局	<p>企画広報課の小枝です。まずはじめにお詫びをさせていただきます。</p> <p>事前に送付しました資料に誤りが何点かありました。本日、追加資料2として、「正誤表」を用意しておりますので、修正箇所はそちらをご覧ください。加えて参考資料1（差替）としまして、参考資料1につきましては差し替えをお願いします。正誤表に紫色で網掛けをしてある部分があります。それは、委員の皆さまを誤解させてしまう致命的なものになりますので、致命的なものについてはそちらをご覧ください。左が誤り、右側が正しいものとなっております。今後は、このようなことがないよう気を付けて参りますので、何卒、ご容赦いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、私から、「いいね！いぬやま総合戦略の改訂について」ということで、総合戦略とは何か、そして改訂にあたっての方針案と今後のスケジュール案についてご説明します。</p> <p>資料1の2頁をご覧ください。はじめに、「市町村総合戦略とは」です。「戦略」、「総合戦略」、「いいね！いぬやま総合戦略」等、色々な呼び方をしておりますが、法律「まち・ひと・しごと創生法」では、「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」という名称が用いられています。まち・ひと・しごと創生法の第10条では、市町村は、国及び県の総合戦略を勘案して、定めるよう努めなければならない、いわゆる努力義務となっておりますが、現在1741の市町村で策定されています。「まち・ひと・しごと創生とは何か？」については、2頁下段、「1 まち・ひと・しごと創生が目指すもの」をご覧ください。最後の3行、「まち・ひと・しごと創生は、人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指す」ものです。具体的には、右側—人口の東京一極集中の改善と出生率の改善です。東京一極集中の改善として、地方から東京への人の流れを食い止めること、東京から地方への人の流れを作ること。また、人の流れを変えただけでは、日本全体では人口減少は改善しないので、出生率を改善して人口減少に取り組もう、というのが、国が考える「まち・ひと・しごと創生」の主旨となります。犬山市では、「人口減少や少子高齢化」、「地域経済の縮小」といった現状を打開するため、「いいね！いぬやま総合戦略」を策定しました。</p>

次に、「総合計画」と「総合戦略」の関係です。3頁をご覧ください。国の手引きでは、別々に作ることが望ましいけれど、総合戦略の要素を総合計画に盛り込めば一緒にすることも可能とされています。犬山市では別々に策定しています。現在の総合計画、総合戦略について、犬山市ではどのように策定したかと言いますと、まず平成27年度＝平成28年3月に「いいね！いぬやま総合戦略」を策定しました。これは先ほどの、まち・ひと・しごと創生の主旨に基づいて、「人口減少」と「地域経済の縮小」に焦点を充てて作られた戦略＝計画です。その後、平成28年度に総合計画を改訂しました。これは、市の施策を網羅的に掲載したものとなっており、この中には「人口減少」、「地域経済の縮小」にどう対応するのかについても、念頭に入れて改訂されたものとなっています。それをイメージ化したものが3頁右下の図となります。総合計画の中にある「人口減少」、「地域経済の縮小」について色濃く記載したもの、それが「いいね！いぬやま総合戦略」です。こうしたこともあって、平成29年度からは、総合戦略、総合計画ともに、この総合計画審議会にて年に1度、進捗管理をお願いしているところです。

4頁をご覧ください。こちらは、総合戦略と総合計画の策定・改訂に係る、これまでとこれからです。赤枠は今年度を示しています。ここでのポイントは、今年、総合戦略の改訂作業がありますが、2年後には、第6次総合計画の策定が開始される予定だということです。さらに、第6次総合計画の策定の翌々年度、実質1年～1年半後には、次の次の総合戦略の改訂作業を始める予定です。

5頁へお進みください。こちらは、この総合計画審議会と、今の総合戦略策定時に組織された総合戦略推進会議の比較表です。6頁にあります。総合戦略策定時には、非常に時間と労力をかけて広く市民から意見を聞いています。このときに出された意見を総合計画にも反映させるため、当時の総合計画審議会委員には、総合戦略推進会議の委員であった方々を中心にお願いをしております。その後、団体の代表で委員を務めていただいている方々は、徐々に変わっていきまして、現在の総合計画審議会のメンバーとなっています。犬山市の総合計画と総合戦略は、その内容だけでなく、策定された経緯、その後の進捗管理と、非常に密接に関係、連動しています。

6頁をご覧ください。こちらは、平成27年度に総合戦略を策定したときの取組です。平成27年度は、市民の意見を反映するため、非常にたくさんの時間と労力を投じました。それからまだ、4年経つか経たないかといったところです。そして、今年度、総合戦略改訂のため、市民意識調査を実施しました。それを見ると、現在の総合戦略に記載されている内容と今回のアンケート結果を見ますと、当時出された意見から大きく変化はないと考えています。

次のページへお進みください。以上を踏まえて、総合戦略改訂の方針案を提示させていただきます。改訂は、計画期間に切れ目が生じないように、今年度中に完了させます。計画期間は5年間。これは、国の計画に合わせたものとなっています。改訂にあたっては、総合計画と総合戦略は非常に密接に関係、連動していることから、この総合計画審議会でご議論していただくことが適切だと考えています。一番下の「どのように」ですが、

- ・現在の総合戦略策定からあまり時間が経っていないこと。
- ・アンケート結果から、当時の市民の考えから大きな変化はないこと。
- ・加えて、令和3年からは第6次総合計画策定作業が控えていること。

以上から、令和3年から始まる総合計画策定時に、市民からしっかりと意見を聞

	<p>きとって総合計画を策定し、1年から1年半程度タイムラグはありますが、次の次の総合戦略改訂の際に、大きな見直しが必要であれば、見直しを実施することが最も合理的であると考えます。したがって、今回の総合戦略の見直しにつきましては、非常に多くの時間と労力を費やして完成させた現在の戦略を最大限生かしつつ、7頁下段にある4点に留意したものとしたいと考えております。1点目は、現在の総合戦略の検証結果の反映。2点目は、社会情勢の変化等への対応。3点目、国・県の総合戦略を勘案。なお、国の基本方針につきましては、次のページに資料を掲載しています。最後、4つ目としまして、人口ビジョンは見直さない。こちらにつきましては、本日配布しました追加資料1をご覧ください。こちらの資料は赤線が現在の人口ビジョン—こうなるといいなという数字。青が基本推計。緑が住民基本台帳に基づく実際の人口です。緑色の点線は、平成27年から平成31年の人口に係る近似線となります。近似線を見ますと、実際の人口は、ほぼほぼ現在の人口ビジョンと同様に推移していることから、人口ビジョンの見直しは不要だと考えております。以上のことを踏まえて、事務局案として考えている改訂イメージですが、「いいね！いぬやま総合戦略」本冊の9頁、10頁をお開き下さい。現在の戦略では、3つの基本目標、“暮らしたいまち”がある、“活躍したいまち”がある、“訪れたいまち”がある、を定めておりますが、この基本目標については変えません。その下に黒い四角がありますが、そこに記載してある、方向性、さらにその下にあるチャレンジする重点事業につきましては、先ほど説明しました1点目から3点目を踏まえて見直しを行います。これが事務局からの方針案です。</p> <p>あわせてスケジュールを提示させていただきます。資料1の最後、9頁へお進みください。左の番号、③の行をご覧ください。今年3月の審議会でもお知らせしましたが、今年度の審議会は計4回を予定しています。第1回＝本日は、この後、現在の戦略の検証や犬山市の課題、総合戦略に記載する内容等について協議していただき、後日、事務局にて論点整理を行いたいと考えております。第2回、既にお知らせしておりますが、12月18日には、本日いただいた意見等を元に事務局案を提示させていただきます。第3回、来年1月20日には戦略案を完成させ、2月のパブリックコメントを経て必要な見直しを行い、戦略を完成させます。第4回の会議、これまで開催日を未定としておりましたが、来年3月23日の午後7時から開催しますので、よろしくお願ひします。その第4回では、昨年同様、総合計画と総合戦略の進捗管理を行いますが、併せてパブコメの結果及び完成後の総合戦略について、この審議会へご報告します。スケジュール案は以上です。</p> <p>それでは、7頁に記載の事務局案について、本審議会にお諮りしたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。</p>
鈴木会長	<p>どうもありがとうございました。非常にたくさんの資料があるのと、併せて修正箇所もいくつかありました。それを踏まえて事務局から説明をいただきましたけれども、今の説明について、皆様の方から何かご質問等ありますでしょうか。大きな流れと言うのはご理解いただけましたでしょうか。総合計画と総合戦略、法定根拠は違ひますけれど、これを合わせて行っていくということになります。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは早速委員の皆様にお諮りして、総合戦略改訂の方針について、資料1の7頁にある案のとおりとしてもよろしいでしょうか。</p>
各委員	(意見なし)
鈴木会長	はい。それではそのようにさせていただきますと思ひます。

	それでは協議事項に移りたいと思います。改訂後の『「いいね！いぬやま総合戦略」に掲載する内容について』、これについて、事務局から説明をお願いします。
--	---

②協議事項

事務局	<p>協議に先立ちまして、まず、現在のKPIの達成状況について説明させていただきます。その後、事前に配布した資料から、又は委員の皆様のお立場から、ご感想や、犬山市の課題、今後取り組んでいくべきこと等、改訂後の総合戦略に掲載する内容について、グループで協議していただき、最後に、委員の皆さまお一人お一人からお考えやご意見、ご感想をいただけたらと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それではKPIー目標指標の達成状況についてご説明しますので、資料2の2枚目をご覧ください。こちらは「暮らしたいまちがある」のKPIです。一つ目、合計特殊出生率については、「分からない」状態です。理由としまして、戦略策定当時は、愛知県から、毎年の合計特殊出生率を教えてもらっていましたが、「市町村単位では変動が大きく信憑性に欠ける」との理由から、情報提供がなくなりました。現在、確認できるものは、厚生労働省が出している数字、平成19年から平成24年で「1.41」という数字が、確認できる最新の値となっております。次の平成25年から平成29年の数字につきましては、令和2年3月公表となっております。次の社会移動人口については、外国人の社会増に起因して目標を達成見込みです。今後も犬山市に住み続けたいと考える市民の割合については、目標を達成しました。</p> <p>次の頁へお進みください。これは、「活躍したいまちがある」の目標指標です。事業所数につきましては、最新数字を把握できておりません。これは、経済センサス・基礎調査の数字となりますが、同調査は、今年実施されているところです。しかし、同種の経済センサス・活動調査というものが平成28年に実施されており、民営の事業所に限定すれば、平成26年と平成28年を比較可能となります。それがグラフの緑線で示した参考値です。民営事業所のみではありますが、事業所数は減少しており、目標の達成は困難だと考えております。なお、従業者数につきましては、平成26年から平成28年にかけて増加しております。もうひとつ、「市民活動に参加している市民の割合」も目標が達成できませんでした。今年6月に制定した「協働のまちづくり基本条例」では、その前文で、「市民・議会・行政がそれぞれの役割と責任を自覚し、お互いに尊重し合いながら、協働して課題解決に取り組むことが重要」としてあります。この条例の普及・啓発に取り組み、市民活動に対する理解を深めていきたいと考えています。</p> <p>次の頁へお進みください。観光入込客数については、平成26年の数字に修正があったため、このグラフでは修正後の数字を記載しています。平成29年度を超える数字であれば、達成可能となりそうですが、平成29年は犬山祭がユネスコ無形文化遺産に登録されてから初めての開催だったこともあって、犬山祭への来場者が多かった年となります。過去4年間の推移を見る限り、目標達成は難しいと推測されます。「犬山市のまちに愛着を感じる市民の割合」については、平成26年から上昇したものの目標達成には至りませんでした。しかし、81.4%という高い割合となっております。</p> <p>KPIにつきましては、現時点において把握できない数字もあるため、改訂を機に、「より適切なものがないか」を検討したいと考えています。</p> <p>事前に送付しました、その他の資料について、簡単にどのような資料かだけ説明させていただきます。</p>
-----	---

	<p>資料3-1、資料3-2は、現在の総合戦略策定当時、委員の皆様にお示した資料を、最新の数字に更新したものです。</p> <p>資料4-1、4-2は、今年9月に実施した市民意識調査の単純集計結果です。市民意識調査では、総合戦略改訂にかかるものだけでなく、総合計画の進捗管理のための設問ありましたので、事務局で不要と考えた項目を除いた抜粋としております。参考資料2として市民意識調査の調査票を付けています。単純集計にない項目についても「結果が知りたい」というものがございましたら、後程お知らせください。</p> <p>資料5は、同じく市民意識調査について、年齢や居住地区等をクロス集計したものと、テキストマイニング、78頁とありますが、要するに「犬山市の魅力、誇れるところを教えてください」という設問に対して、重要な単語、そして単語同士の結び付きを視覚的に表現したものとなっております。</p> <p>以上の資料について、このあとの協議の材料にさせていただければと考えております。事務局からの説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。KPIをはじめとして、目標をどの程度達成しているのか、いないのか。目標的な視点でのお話と合わせて、関係資料の概略を説明していただきました。委員の皆様から、どうでしょうか、何か確認したいこととか、ご質問ありましたら、ご遠慮なくお願いしたいと思います。その後に本題の方に入っていきたいと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは早速、次の作業に入っていきたいと思います。委員の皆さんにはこの後、2グループに分かれていただき、グループ内で意見交換をしていただきます。今日は事務局が司会を務めて、委員の皆様にご投げかけをします。それについて、今日お持ちいただいた、データから読み取れるもの、日頃の生活で感じ取れること、お仕事を通じて明らかになっていること、様々なコメントをいただけるようにしたいと思います。時間ですけれども、午後8時30分までには、各グループでの討議を終えていただきます。それでは資料とネームプレートを持って、移動をお願いします。</p>

(移 動)

【Aグループ】

事務局	<p>グループワークの進行を務めさせていただきます小枝と申します。事務局の方から部長の鈴木と、倉知が参加させていただきます。時間は8時30分まででよろしくお願ひします。最初に自己紹介と、総合戦略改定にあたってのご意見と言いますか、こういうことを取り上げたいなということがありましたら、伝えていただいてもよろしいでしょうか。で、後程、皆さんから出された意見をもとに話をするという形をとりたいと思います。</p>
中村(昭)委員	<p>ものすごく幅が広い議論なので、どこからどういうふうに、というのが迷うというか、困ってしまいますが、感じた印象だけ。資料を見させていただいて、人口減少、特にテーマが総合戦略なので、人口減少にどう取り組むか、地域経済の縮小をどう食い止めるかがテーマですよね。どこの市町も、子育て支援をしっかりとやって、人口減少を食い止めて、若い人達が住みやすい街にしよう。どこの市町も同じことを言っているの、では犬山はやらなくても良いかというところ、そういうことではなくて、犬山らしい、犬山ならではの手をどう打つかというものを、一つか二つ出さないといけないと思っていて、そこをデータから読み取って作戦を考えるというは</p>

	<p>なかなか難しい。さすがに至難の技ですけど、犬山って外から見たときに、観光のまち、観光の市というイメージが良くも悪くもあると思うので、特に昨今、この5年間ぐらいの間で言うと、非常に犬山の城下町を中心に、外から来る方が急激に増えていると。外部要因からいくと一番大きいのではないかと思います。これはプラスの側面と、マイナスの側面とあって、マイナスの側面をどう解消するか、プラスの側面をどう活かすのかを考えると、ひょっとしたらヒントが出てくるのかなと。じゃあどうしたらいいかというところの結論にまだ至っていませんが、そんなことを考えていました。</p>
畑委員	<p>畑竜介と申します。私は今年度から参加させていただきますが、いただいた資料をさらっと見まして、先ほどの先生の話にもあったように、人口減少ということも考えると、観光のまちということで定住する人口を増やすことも大事だと思いますが、交流人口を増やすことも大事なのかなと思っています。KPIの中で、目標を達成しているもの、していないものがありました。市民活動というところで目標を達成できていない、下がってきているところがあって、僕自身、市民活動団体から出てきているということもありまして、少し気になる場所です。やはりあのような活動をしていると、行政と絡むことも多くなり、まちのこともよく分かり、結果自分の住んでいるところが好きになり、住みついていくというのが増えるのではないかなと、特効薬にはならないと思いますけれども。そういうところについて、協働のまちづくり基本条例ができたということもあるので、その辺を中心に考えたいなということと、国の指針のSociety5.0というところについて、今後どうやって考えているのかなということも、考えを聞きたいところです。以上です。</p>
松浦委員	<p>少子化と、人口減少が明確な国の方針なのでしょう。こうも急激に国の方針とかはやり言葉が変わるのかなと思ひまして。高齢者のことが、字づらで減ってきました。私はそんな気がします。人口減少で聞くことは、女性の考え方ー比較的若い女性の考え方、そこに戦略をしていくというのは分かりますが、そこは犬山も含めて日本中どこもやっていくのでしょう。その流れはできていますから、そちらは充実していくなと思っていますけれど。年寄りが置いていかれるなという感じがします。さっきのSociety何とかとか、SDなんとかとか、色々カタカナがありました。ここに出てくるまでにいろいろ調べてきました、分からない言葉が多くて。結局、どこかに重点を多くと、こぼれてしまう人達が出てきてしまうので、いろんな人が住んでいるのがまちなものですから、ある程度年齢の上の人達の手当ても、予算をつけるということではないです、世の中の主流が若い人についているので、そういう方達への手当も必要です。なぜそのようなことを思うかと言いますと、たまたま令和になって、ものすごく時代が変わっていくなと感じがしています。たまたま犬山だけかもしれないけれども、名鉄犬山ホテルもなくなってしまったり、清水屋もなくなってしまったり、既存の犬山市民に愛されたものがどんどん減っていきます。新しくホテルができたり。結果的に、令和になって大きく物事の価値観が変わっていくのだろうなと思いますので、そこでこぼれがちな人達のことは忘れてはいけないなと。全世代型支援みたいな、国もそのようなことを言っていたと思いますけれども、どうしても、流行りとか光るところに集中しすぎるものですから、古い価値観を持って生きてきた人という意味の高齢者ー60歳以上の人達、そういった人達も含めて、うまく回るといいなと思っています。たまたま昨日ニュースを見ていたら、シェアリングハウスのことをやっていて、東京にいる若い女性がシェアハウスで住むことを考えているというか、「それ以外は住みたくない」って表現をしていました、</p>

	<p>給料はとっても安いですけど。そこで何か得るものがあるのでしょうかね。その中で、シェアハウスのメリットは、外国の人もいるから、その人と一緒に暮らせるということを言われていました。明らかに価値観が変わっていきますから、この流れは間違いなく良い流れで、そういうふうには日本社会は変わっていきます。それに乗り切れない人達のことでも忘れないように、というふうにしていくのが、まちの懐の深さにつながっていくのかなと思いました。私は駅前の商店街に住んでいて、店主のイメージって、だいたい70代のおじいちゃんたちというイメージが強いと思いますが、実際そうです。この人達が、こぼれていっています、いろんなことから。20年くらい前はものすごく元気だったけれど、やはりこぼれていってしまうものですから、この人達の考え方を考えさせないといけないのですが、先頭に立つとは言わないけど、同じ船に乗っていけるような地域づくりは必要なのかなと思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。一つずつ確認をしていきたいと思います。観光について、ということで、松浦委員が、観光客を目にするところに住んでいらっしゃると思いますが・・・</p>
松浦委員	<p>そうですね。目の前にたくさん通ります。功罪、罪が目につきます。外国人のことでも、人間というのは自分に直接メリットがないと。</p>
事務局	<p>マイナスの方が目につく。</p>
松浦委員	<p>人間ってそういう生き物ですけどね。人の粗は見つけやすい。</p>
中村(昭)委員	<p>例えば、よく言われているのが、犬山の城下町というのはあれだけ土日、人が出るのに、夕方5時くらいになると、半分以上の店が閉まってきて、宿泊施設が非常に少ないということがベースにあると話は聞く訳ですけど、あれだけたくさんの方が一度に訪れると、こなしきれないから。駐車場があふれるとか、結果渋滞が起きるとか、来た人が食べ歩きをした結果で、宿泊客がいらないからお金はそんなに落ちないのに、ごみだけ落ちるとか、特に商店街にいる方なんかは、先ほどの話でマイナスの面が目につくという、多分そんなことがあるのだろうと想像はする訳ですけど。それでもいいから外から人を呼びたいと思っている市町が世の中にたくさんある。犬山は現に、害はあるかもしれないけれど、たくさん人を呼べているので、そのメリットをどう活かすのか、というふう考えた方が良くないかなと思います。たくさん来てくださっていることがマイナスになることもあるかもしれないけれど、それを上回るプラスがあれば、そこで商売をやられている方、住んでいる方それぞれ、マイナスもあるけれど、プラスもこれだけあるから我慢できるという話になると思います。プラスをどうするか。具体的に言うと、お金を落としてもらえよう、使ってもらえよう、構造に変えていくのかとか。あるいは、どうしても城下町に集中してしまっている傾向があるので、それをどうやって分散させていくのか。これはデータを見るまでもなく明らか、犬山城だけで言えば20%くらい増えている。ところがモンキーパークはもちろんのこと、明治村でも減ってきてしまっているところを見ると、日本有数の観光施設がありながら、これだけ近くにありながら明暗がはっきりと分かれてしまっているところがあるので、それをどうやって有機的につなげてどうするかということを考えないと、策はないのかなと思います。それは子育てとどうつながるのかということ、結論は見えてないですが。</p>
事務局	<p>ただ、今の総合戦略で、交流人口を増やそうという観点があるので、直結じゃなくても総合戦略に載せられます。先ほどの、日本モンキーパークの入場者数が減っているという点、26年度の数字が、途中までモンキー「センター」への入場者数も</p>

	<p>含んだ数でカウントしていました。この落ち込みは、モンキーセンターが純粋に減っているというわけではなくて、数字の元が違うというところがあるので、すみません、修正させてください。</p>
中村(昭)委員	<p>一応、そこを考えれば、モンキー「パーク」としては増えていると。</p>
事務局	<p>最近若干上がり傾向ですね。27~28の間で若干落ちて、そこから徐々に上がってきている形です。今の観光について、何か畑委員は何かありますか。</p>
畑委員	<p>観光、先ほどの話もありましたけれど、城下町に集中しているということは、どこでも言われている中で、一つ大きな問題としては、あそこの通りで地元の人が商売をしていないというのがすごく大きいなど。出稼ぎではないですが、他の地域から来てお店をやっていると。今、流行っているから良いですが、中には思いがある人もいるんですけど、儲かるから来ている人は、人がいなくなったら去っていくので、そうすると10年前の本町通りというのが見えてきてしまうので、そこは非常に危惧しているところではあります。地元の人がやっていないから、夜も開いていない、帰ってしまうから。犬山には、他にもいろんな観光施設、歴史的施設があって、見るところはたくさんありますが、流行りにのってあそこに行って、駅から出て駅から帰ってしまうということになってしまうけれど、結構僕の周りでも、楽田とか他の地域の人から、皆さんよく聞いていると思いますけれど、「城下町にばかり金を使って」と僕も立場から色々言われますが。皆さん言っているのが、犬山城、城下町が犬山市の4番バッテリーというのはどうしても変わらない事実だから、そこをもっと利用しないと駄目ではないかと。自分達がそこにもっと出ていって、自分達の地域の施設を売り込む。そうすれば、良いか悪いか、あの通りには市外の人しかいない、市民はあまり来ていないので。ということは、あそこが犬山の発信地になるので、そこにもっと市民が入り込んでいくことによって、分散されていくということが、少しずつ可能になるのではないかなど。実際、今井のお米で作ったおにぎりを本町で売ろうという動きもあると言えばあります。そういうことを加速していくことによって、城下町だけではない魅力が発信できる、観光という視点からいけば。それが同時に定住につながるかと難しいところですけど、先ほどの、交流人口を増やしていく、そして、色々な魅力が分かってくれば、そのうちの数人かは犬山に魅力を感じてくれて、将来的に定住してくれる人もいるかもしれないと。観光については、そういったところが問題と思うところですよ。</p>
中村(昭)委員	<p>本当にその通りだと思います。「城下町だけ」と批判する人はいるけれど、城下町が活性化しているということはどう使うか。そこに来てくれているわけだから、「どうやって自分達の施設、自分達のまちまで、引っ張ってくるのか」というのを考えるのが良いと思うし、そのまちで作ったものとか、売っているものを城下町に持って行って販売する、提供するというのももちろん良いと思います。そこがやっぱりスタートラインなのかなという感じはします。</p> <p>人口の年齢別の構成比を見ても、愛知県内でも特徴的ですよね。65歳以上が愛知県で上から数えて10番目ぐらいに比率が高い。一方で15歳未満は下から数えた方が早い。54市町あるうちの39番目。構造的に若い人達が外に出て行ってしまっている。あるいは住んでもらえていない。現在そういう構造です。若い人達が定住するには産業がないといけないし、まち自体に魅力がないといけないし、いろんな要素がありますが。この前、大学である学会をやらせていただいて、その時に、釜石のシティプロモーションをやっている人を基調講演で話をしてもらいましたが、その人が提唱しているのが、「ローカルキャリア」というもので、若い人達で何か面白</p>

	<p>いことをやろうとしている人達は、今までみんな都会に行っていた。だけどローカルで魅力的な仕事をしようとする人が色々なところに出てきていて、そういう人達のキャリアというものを描いてあげて、そういうフォーカスをしていく。若い人達でも、いわゆる田舎で、こんなに面白い仕事をしているよと。田舎の方が、住むという環境について言うと、都会よりも明らかにアドバンテージがあることがたくさんある。物価が安いとか、広い部屋に住めるだとか。空気がおいしいとか。様々、色々あって、その魅力を楽しみながらローカルにいることに意味があると頑張ろうとしている人達が、たくさん共有されつつあって、そういう人達が、一つの行き先として犬山を見てもらえるような、モデルではないけれど、何人かできたらいいのではないかなと思いつつながら釜石の人の話を聞いていて。それを実は来年ぐらいから仕掛けていけないかなと思っています。</p> <p>あと、先ほど松浦さんがおっしゃられていた、外国人の交流という話も、私にとっては大きなテーマで、うちの大学で今度の3月に新しい学生寮を作りますが、そこは4人で共同生活をするというシェアスタイルでスタートさせようとしています、一人日本人であと3人は外国人留学生という構造で。その外国人留学生も3つの国。要するに母国語が全部違う人達。典型的なのが、ベトナム、中国、ウズベキスタンとか。うちの留学生がいろんなところから来てくれていて、多いところがその3つなので、それに日本人を一人入れて、共通言語は日本語にしよう。そこで生活すると、生活の中で、日本人からするとグローバル感覚が身に付くし、外国人からすると日本語を学ぶ機会になる、あるいは日本の生活習慣を学ぶ機会になる。それが面白いと言ってくれる人達が、色々ヒアリングをしていくと、少なからずいます。特に若い子達は抵抗がなく、むしろそれを楽しむという。それを、実例を作って、早く犬山の皆さんにお知らせするようなことをして、「こうやって交流していけるよ」という実績を、楽田でやるのは初めてですけど、楽田発でそういう情報が広がると、だったらうち空き家があるけれど、そこで受け入れようかとか、一人でも二人でも出てきてもらったらいいかなと思います。大学としてはそんなことを考えながら、外から人を増やすというところに力を入れられないかなと思っています。</p>
事務局	<p>中濱委員が到着されましたので、いきなりですけど、自己紹介と総合戦略—どんなことを次の総合戦力に盛り込もうかなと話をしているので、こんなことを考えたいなということがありましたら、お伝えいただけたらと思います。</p>
中濱委員	<p>総合計画委員の中濱と申します。今回の総合戦略改訂の目的が、引き続き人口減少の歯止めと、地域経済縮小の歯止めという件で、どちらかという、人口減少の方に普段生活をしていて実感があります。例えば、子ども達が外に出ていくことを考えています。現状の資料を拝見しましたが、例えば、市外の学校に行くということを考えるのも、分からなくはないというか、申し訳ないですけど、是が非でも犬山市の学校にという意識は持っていない。通学なり、通勤なりでどんどん外へ出て欲しいけれど、例えば自分が子育てをする世代になったときに、自分の世代としては犬山市で子どもを育てる環境というのは色々ありがたいなと思っています、良かったなと思うので、帰って来て子育てをする世代の取り込みというか。医療費の助成であったり、保育と教育の充実にいかにか他市町との差別化というか、今だと良いか悪いか分かりませんが、2学期制というのもすごい良かったと思いますし、次の世代を育てる市、というところに特色があると良いなと思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。今、委員の皆さんから、同じ発言と、こんなことをした方が良いということを伺ってまして、先ほど、畑委員の方から、市民活動に参</p>

	加される人の数が減っているという課題定義がされていて、10分くらい皆さんで話をさせていただいても良いですか？
松浦委員	<p>その前にさっき交流の話をしていたので、そこだけ少し触れていきますけど、交流はどんどんやった方が良いと思っています。功罪があるけれど、基本的には来ていただくことはとても良いことですし、違う価値観の方の意見を伺うというのはとてもいいことです。交流はどんどんやって良いと思っています。人が来てくれることのメリット、経済的なことだけではなくて、それをもっと伝えるべきだと思います。それを伝える人は、訪れた人もさることながら、交流とか、観光で仕事、生業にしている人達をもっと発信すると良いなと思います、その最前線にいる訳ですから。僕は逆にそういう人達から、ご意見を聞いてみたいなと思います。なぜかという、私は商店街の昔からのメンバーで、商店街が昔、何をやっていたかという、夏祭りをやっていた。それは商店街の人達がやっていた、行政に頼るわけではなく、手づくりの盆踊りとか。商店街の人達は、僕らより先輩の人ですけれど、大きな店舗が出てきたりすると、危機感を持って、「さあ何やろう」というと、出てくる発想盆踊りくらいしかなかったですが、そうやって自分達で考えて、手づくりのイベントを打って、まちは作るものだ、維持しなくてはいけないものだっていう感覚と、仕事がかっついてたけれど、今は少し薄いのかなと思います。どんどん人が来ちゃうから。ここは経済効率が良いから入る人が多いから。そういう中で、だんだんイベントもたくさん打たれるようになってきていますから、そういう方たちも、まちづくりに対する思いはたくさん持っていると思いますから、そういう方たちが観光客に成り代わって色々来てくださるメリットとか素晴らしさをスピーチしてくれると、聞くチャンスは出てくるのかなと思います。その上で、その人達がゴミを拾ったり片付けをすれば、その姿を見て周りの人達も賛同してくれると思いますから。関わっている人達をもっと発信されると良いなと思いました。</p> <p>外国人も同じような考え方です。僕の同年で電気工事店をやっている人がいますけれど、技能実習生がいます。個人の電気工事屋さんでもそういう時代が来たんだなど。彼は一生懸命語ってくれるわけですが、その必要性を。来たら、近所の中華料理屋でご飯をごちそうしたり、そういう家族ぐるみの付き合いをしていますから、そういう姿を見ていると、単なる外国人というか、もう少し近いというか、実生活の中に溶け込んだ感じがします。接点にいる人達がそれを発信すると良いなと思います。だから交流人口と、外国人の流入は似ていると思いますね。流れが出来ちゃっている。いい意味でこれ、どんどん行きますから。その軋轢とか摩擦を事前に、関わっている人達が上手く解決していったらいいと思います。</p>
事務局	市民活動については。
松浦委員	市民活動をやっている人は非常に少ない。
事務局	元々の数字があまり高くないで、そこからさらに下がっているという。
松浦議員	市民活動というのはNPOとか。やっている人は結構いるのかもしれないけれど、統計として出にくいのかなと。
事務局	アンケートで聞いて、場合によっては誤差かもしれないですが。
畑委員	市に登録されている団体が数えていますか。
事務局	基本的には自己申告です。この設問を送った回答なので。もしかしたらそうではないのに「○」をつけている人がいるかもしれないし、実は参加しているけれども「いいえ」で答えているかもしれない。
松浦委員	これは上げるのはなかなか難しいのではないかなと思います。昔の、違

	うかかもしれませんが、30～40年の関わりと言ったら、町内会、婦人会、子供会、商店街とか、そういうものとは明らかに違うものがたくさん出てきているから、それにのりにくいのかなと思います。市民活動のイメージが、年代的にある程度若いところを指してしまうのかな。そうするとなかなかやれないかもしれませんよね。でも、そもそもイベントに行くだけでも市民活動だと思うけれど。
中村(昭)委員	大学は今地域連携センターというのを作って、地域のニーズをできるだけ大学で汲み取って、協力できるものはやっという事で、その典型的なものがボランティアいわゆる市民活動。うちの大学は犬山から通ってくれている子は、実は多くないけれど、それはそれで問題、課題ですが、子ども達は、ほとんどの子はバイトをやっている中で、ボランティア活動にあまり行きたくないのかなと最初思っていました。紹介をすると、すごい手が挙がる。いろんなところでうちの学生たちがボランティアに出かけていて、彼らを見ていると、決してそういうことが嫌いとか、やりたくないとかいうわけではない。きっかけを提供してやると、必ずそれにのっかってくる子達が少なからずいるので。「NPOを作りましょう」と言うのと、ものすごくハードルが高いですが、「一緒にゴミを拾いましょう」とか、敷居を下げて誰でも参加できるスタイル、そういうメニューを増やしていくと、手を挙げる人達は、いるような気がします。しかも、ボランティアというと、大学生は比較的時間が緩やかだから参加しやすいと思うけれど、高校生とか、中学生でもそういう機会をちゃんと提供して、学校側が認知した状態でやると、手を挙げる人は絶対いるので、「市民活動」とか「NPO」とかハードルを上げるのではなくて、「こんなことをみんなで一緒にやっていきませんか」というメニューをたくさん用意して、集まってくれる人、協力してくれる人、やりたい人、手を挙げましょうということを学校の方にもっと広く働きかけていくと、若い子達から手が上がるのかなという感じがします。若者達は、ごみ拾いをやりたくないかと言ったら、決してそうではなくて、むしろ、あれは格好良いという人達もいる。だからそんなふうになるとすごく良いなと思います。ちょっとロイヤリティを持たせてあげるとすごく喜ぶ。例えば、お揃いの格好良さげなユニフォームを作ったりとか、ピブスでも何でもいいけれども、それだけでも出てくれたりとか。ネーミングをかわいらしくするとか、そういう感じにすると参加者が必然的に増えるような、「あれって市民活動だよね」、「カウントしても良いよね」とかいうふうになるのではないかと。
事務局	中濱委員は、市民活動参加について何か思うところとか、自分は等ありますか。
中濱委員	私は、消防団に参加させていただいていますけれど、市民活動は、何のために活性化の必要がありますか？
事務局	市民活動自体の活性化ですか？今なかなか「市がやっていくよ」とかいうのもありますが、市だけではなかなか難しいなというところで・・・
中濱委員	予算的のところですか？
事務局	予算も、人の数も…
中村(昭)委員	すごく良い質問。
畑委員	僕は市民活動をしていた部類の人間ですが、僕は市民活動の意義というのは、人口減少だとかいろんなところで、もちろん先ほどの、子育てをするために犬山に戻ってきたいとか、すごくうれしい言葉、ありがたいと思うところですが、もちろん、支援するだとか、教育の部分って大事ですが、僕は根本は「人と人とのつながり」だと思っています。やはりめちゃくちゃいいところでも、誰も知らないところにポンと行くよりかは、知っている人ではないけど、人と人とのつながりが一番根底にあ

	<p>るのではないかと考えていて、市民活動って、角ばっていますけれど、平たく言えば「人と人がどうやってつながっていくか」というだけの話なので、先ほどのゴミ拾いの話でもそうですし。そういう、人と人のつながりを作っていく上で、そういった一定の効果ではないけれど、そういうのはあるのではないかと思います、市民活動自体。NPOとか、しっかりしたことでなくて。</p>
中濱委員	<p>市民として関わる機会があることで、市に定着というか愛着が持てるということですか。</p>
畑委員	<p>今まで活動しなければ出会わなかった人、関わり合えなかったような人、世代を超えた交流というのも当然そこで生まれるわけで、そういったところが、いろんなことあると思いますけれど、根底の大事な部分なのかなと。市民同士が仲良いことに越したことはないのです。</p>
事務局	<p>市民の方同士のつながりというんでしょうか、今なかなかそういうつながりがなくなっているというところもあるので、そういったものを解消するきっかけの一つに市民活動というものがなれば良いのかなと。</p>
中濱委員	<p>あれば必ず参加するか。何て言うか住んでいるだけのお客様のな・・・</p>
事務局	<p>住んでいるだけのお客様のな人というところで、若いうちというか、その人だけで過ごしていけるうちは良いと思います。ただ、何かあったとき、将来年をとったときを考えると、やっぱり「遠くの親戚より」ではないですけど、地元とか人と人とのつながりって大事だと思うので、そういったものを大事にさせていただくような土壌というか、そういったものを作っていくかといけないのではないかと。消防団をやっているから・・・。</p>
中濱委員	<p>はい。本当にそれが目的というか、分かります。</p>
事務局	<p>やっていたらいいのに、厳しいことをおっしゃるので・・・。</p>
中濱委員	<p>あれば必ずしも誰もが参加するものではないだろうなという。もちろん活発な方が良いなとは思いますが。そこに目標を立てるということがいまいよく分かってなくて。</p>
事務局	<p>目標指標については、見直しつつ・・・これが「活躍をしたい」ということだったので、市民活動を通じて市民の方が「活躍をしたい」という主旨で作ったものではありますが、KPIとして適切なものかということに関しては、また議論があるのかなと思います。検討をさせてください。</p>
畑委員	<p>市民活動のKPI、目標数値どうのこうのというのは、置いておいて、増やすということだと、「協働のまちづくり基本条例」もできたことだし、僕としては、本気でやれば増えると思います、行政側も。やっぱり市民活動をしている人はたくさんいるけれど、例えば来週火曜日に犬山城の委員会があります、市役所で。それが今日発表されている。市民団体にお城の関係の人いるが、傍聴ができるけれど、そこに教えられていない。いろんな市民団体が何かをやらうとするとときに、割と受動的というか、もうちょっとこう呼んで、「こんなことどう？」って言ったら多分、「ああいいね」ってやる人いっぱいいると思います。市民団体登録していて、活動していない人いっぱいいます。登録だけして、昔はやってたけど今はやっていないとか。基本条例もできたことだし、本気でやっていくのであれば、もう少し前のめりに行ってもらえれば、すごく充実した活動になるのではないかなと。充実した活動になれば裾野も広がると思いますし、また新しいことをやりたいという人も出てくると思うので。戦略の中に入れてもらって、本気度を見せてもらえればと思います。</p>

事務局	では残った時間、中濱委員がおっしゃった「子育て施策」について。一度犬山を出た人が帰ってきたくなるようなものをやると良いのではないかとということで、一人一人ご意見を頂く時間がないので、これはというご意見が、発言をされた中濱さん以外でありましたら。医療費だとか、教育・・・
畑委員	教育という部分で行くと、今、ちょうど議会とかでも話をしていますが、来年からプログラミング教育が始まるだとか、非常にガサッと色々なことが変わっていく中で、割とICTに関するところが犬山は遅れているなと感じるところが僕は非常に強くて。近隣市町でいくと、デジタル教科書は当然のように使っているところが多くて、犬山はようやくこれからスタートすると。犬山は犬山で独自で副教材だとか、少人数学級だとか、非常に、ソフトのところにお金をかけていただいている、すごく、2学期制というところも含めて、良い教育をしてくださっていると思いますが、時代の流れというものもあるので、そろそろ色々と、それが悪いということではないですけど、別の選択肢もいっぱい出てきているので、それを一応テーブルの上に並べた上で検討していかなくてはいけないのかなという気はしています。これからICTの知識というのは生きていく上でも必要不可欠なので、そういった教育をしっかりしていく、していかないというのは、今後犬山の子どもが大人になるときに、大きく変わってくるのではないかなと、特にこういう過渡期の時代である以上、と思います。以上です。
中村(昭)委員	一つ質問をしていいですか。例えば子育ての話で、全国で話題になるのが、待機児童。犬山は子育てのためのハードウェアというのは、他の市町に比べて、充実していますか。待機児童がほとんどいない状態と考えていいですか。
事務局	今は、ない状態です。施設が充実しているかというところと少し辛いんですけど。キャパは全て受け入れるものは受け入れているというところなんです。
中村(昭)委員	そういう課題はない訳ですね。
畑委員	子どもが少ないということですかね。
事務局	減っていますから。ただそれでも大変です。保育士さんがいない。
中村(昭)委員	グサッと来る指摘です、大学として。
事務局	臨時の人で繋いで、繋いでというのが現状です。
畑委員	保育士さんの働く環境の改善とかいうのはよく聞きますが、やっぱり臨時職員の人と正規職員の人と。今度から臨時的任用職員で変わるので、少しそれで良くなるのかなと。今までだと、ベテランの先生でも臨時職員の人だと、お給料が・・・というところもありましたけど、今回、その辺は少し是正されて、少し働きやすくなるのかなと思います。すごく重要なポストだと思うので保育士の方は。
中村(昭)委員	それはすごく大学で身につけられている部分ですが、うちは保育士を養成する学科があるから余計ですが、その子達でも、待遇・処遇の面では、民間企業の方が良いというのがあって、子どもたちが好きでそういう仕事に就きたいと言って入ってきたはずなのに、出口を目前にすると、ぶれてしまう子達は結構いる。非常に悩ましいです。
畑委員	大変な仕事だということが分かった上で、ということなんでしょうね。
中村(昭)委員	もちろん。実習とかを重ねていくと、ここまで大変となると、隣の芝生は青く見えてしまう子達がどうしても多いという現状があります。そこは大学として克服すべき点だとは思っています。
中濱委員	一つ伸ばしていただきたいなという点もありまして、教育というか子育ての面ですけれど、食育にかなり力を入れている犬山市だと思っております。給食がセンタ

	一ではなくて、各学校でというのはすごくうれしい点ですし、広報に掲載されている名経の学生さんが考えたメニュー。ああいうものを、子どもにというよりは、若い世代のお母さんを集めて、給食の献立メニューと一緒に再現しましょうとか、学生さんが先生になって、受けるのがお母さんたち。そうすると学生さんのやりがいにも関係したり、市民活動になるかなというふうに。何か一つ、「これだから犬山市はいい」という特色、今あるもので伸ばせるものと思うと食育、農産物も地産のものもたくさんありますし。
中村(昭) 委員	子どもたちが基本3食、1日食べるとすると、1食は学校だけど、残り2食は家庭で食べるので、家庭で食べる食事の量が圧倒的に多い。
中濱委員	給食が一番充実していました。
中村(昭) 委員	ノウハウを仮に提供できるものがあるとなれば、それを若いお母さんに提供していくことは可能だと思います。後はそういう場をどう上手く作っていくか。学校で出来るのであれば、家庭に伝えることが出来ないということは全くありませんので。
畑委員	給食試食会ではなく、給食作成会を作るということですね。
中濱委員	そうです。
畑委員	これは出来そうですね。
事務局	お母さんを対象にということですかね。
中濱委員	はい、そうです。
事務局	学校給食のメニューを？
中濱委員	はい。給食のメニューを。もっと広い意味で言えば、食育の大切さというか。
事務局	単純に給食のメニューというだけの話だと、昔、メニューを定期的にもらっていたような気がします、献立の作り方みたいなものを。それを作ってもらってすごくおいしかった思い出があります。
中濱委員	はい。ついていきますね。給食の材料と、その横に作り方。
事務局	そういうものを食育という観点から、お母さんたちを集めて一緒に作れたらということですね。
中濱委員	配布にとどまらず実践する機会があればと。一つ特色になれば、テレビが来たりして良いかなと思ったりします。
事務局	ご意見として、持ち帰らせていただきます。名経さんとも話をさせていただくことなるかもしれませんので、よろしくをお願いします。
中村(昭) 委員	あと、65歳以上が多いということは、子育て支援からすると課題のように聞こえる部分がありますが、そうではなくて、この人達は子育てを通過してきて、そういうノウハウを持っている人達なので、それをどうやってこっちに活かすのかというのをうまく考えられないかなと。私は犬山ではないから、こんなことを言うと怒られてしまうと思いますが、隣の小牧で、老人福祉施設を作るというのがあって、その委員をやらせてもらっていますが、その時に、「元気なお年寄りがこれだけ集まるのだから、そこをもっと活性化させるために、小さな子供たちと交流できる場を作ってもらえませんか」という提案をしたら、これは老人向けの施設だから却下と言われて、そういう考え方って出来ないのかなってすごく思います。この人達って、幼稚園とか、保育園の小さな子どもたちのことをものすごく好き。育てるということに対してものすごくノウハウを持っていらっしゃるから、上手く交流する場を作ったりすると、老人の方々も喜ぶし、若い子育てで悩んでいるお母さん達からしても、学べる部分があるような気がして、何かプラスに使えないのかなとすごく思い

	ます。
事務局	今のお話と、先ほどの松浦委員の話に若干関わってくると思いますが、第2の新たな視点で説明を省きましたが、ここの5番目で、「誰もが活躍できる地域社会をつくる」というのがありまして、そこで、まち・ひと・しごとで女性、女性と言われてはいますが、それだけでなく高齢者、障害者、外国人とかあるものですから、何かしらの形でこのエッセンスを次の戦略に入れていきたいなと思います。
松浦委員	私も今のを聞いていて、それこそ市民活動ーお年寄りの新たな市民活動。今までは世代でくっつけてしまっていたので、老人クラブ行っても、運動会とかなんとかかんとかなんだけれど、老人で子育てを応援する市民活動団体というものが出来てきたら、世代間交流も一気に進むし、お互いイキイキするでしょうね。
中村(昭)委員	隣の小牧市のことを悪く言うつもりはないけれど、進まない理由というのを自分なりに分かったことがあります。つまり、役所の中で言うと縦割りです。老人系のサービスをやっているのは高齢福祉課、子育ての支援をやっているところは子育て支援課、別のセクションでやっていて、セクションを超えてやるというのが本当に役所って苦手で、難しい。だから余計にこことここを結びつけるということを実現させることが難しいことになっているので、犬山がもし変えられる部分があったら、すごく目立つ事例になると思います。
畑委員	そこをつなぐのが市民です。世代間交流というか。僕の地元でも、町内会と敬老会と子供会が一緒になって事業をやる。芋煮だとか、イモ掘りだとか。結局そういうのも縦割りというところがあるので、市民が来れば必然的に交流しますよね、市役所内でも。結構そういうところでは重要かもしれない。
松浦委員	やっている部分はあるからね、そんなに悲観しないで。
畑委員	やっていないと言うつもりはないです。
松浦委員	養老院と保育園とイモ掘りを何十年もやっています。地味な活動ですけど、そういうのはもう少しスピークすると良いかもしれない。
畑委員	上木子ども未来園の子は石田さんの畑で毎年芋ほりをやっていますからね。
事務局	毎年、企画広報課の広報部門が写真を撮りに行っています。 向こうがそろそろ終わった感じみたいなので、こちらもそろそろ。ありがとうございました。

【Bグループ】

事務局	グループワークの進行をさせていただきます、企画広報課の安藤と申します。よろしく願いいたします。このグループワークでは、あとで席に戻っていただいたときに、委員の皆さんにご発言、お考えをお聞きするときに、このグループで意見をまとめるということではなくて、皆さんの意見を聞きながらご自分の考えや意見を整理していただきたいということで設けているグループワークになります。先ほど会長も言われたように、午後8時半を終了にしたいと思います。進め方ですが、一人2~3分程度でご発言をいただきまして、そのあとに、ご発言いただいたことについて皆さんで深めていく、という方法でいきたいと思います。簡単な自己紹介と、今回の戦略改訂にあたって、盛り込まないといけないと考えていただいていることだとか、ご自分のご活動の中で、思っていることだったりをご意見いただきたいと思っております。なるべく多くの方にご発言いただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく願いいたします。
水内委員	水内です。よろしく願いいたします。専門としてはデザインをもとに、まちづくりだ

	<p>とか、デザインがもっと、色、形だけでなく別の分野で活躍できることがあるのではないかということで、そのような点から関われば良いなと思っています。資料を見させていただいて、人口動向とか分からないところもありますが、「大きく、ここがものすごく問題だろう」というところが、いい意味で見当たらないということが第一の印象でしたけれども、議論をしたり、深く考えていくと、色々と今後もやらないといけないところが見つかってくるんだろうなと思っています。特に「市民の参加」が少し出遅れているのではないかと、ということが先ほどのお話の中でもありましたけれども、資料を拝見した中でも、全体として、できるだけ積極的な市民参加、市民の活動主体によってまちが作られていったりする、ということ、どうやって後押しできるかということが一つ、今回の観点にもなるのかなと、なんとなく感じています。</p>
石田委員	<p>石田です。はっきり言って、テーマというか、内容が大きすぎて、具体的に自分はどうしたらいいだろうかということまで、本当のところ、よく分かりません。例えば、一つのテーマに絞って「これをどうしましょう」という提言があれば、考えが、浅はかでもなんでも及ぶでしょうが、「総合的に」と言われると、普段からそういうことに携わって、いろんなことで経験のある方なら良いですけど、私なんか、そういう今までの経験ありませんし、はっきり言って、どこからどうやっていいのかわからないのが現状です。</p>
事務局	<p>また発言の機会があると思いますが、特に石田委員については、色々と地域の活動もやっていただいたり、子どもさんについて関わっていただいたり。あるいは農業委員としても、農業は産業の大事な部分だと思うので、土地利用にも関わることだと思うので、そういったところの日ごろ思っていることとか、感想のようなことでも、まずはいただくと、そこからまた我々も考えていけるかなと思います。</p>
石田委員	<p>農業委員という立場で言いますと、日本中どこでも言われていることですが、昔から、親の代から田畑を受け継いで農業をやっている人が、ほとんど70～80代の人ばかりです。その人の子ども達というのは、皆サラリーマンで、外に出ていて、忙しい時に親の手伝いを少しするくらい。それと、本当に農業で生計を立てている人はゼロではないですが、ほんの一握りです。一般の人は自家消費の家庭菜園をやるとか、そういう範囲内で、作ったものを市場に出して、あるいはスーパーに出して、それで生活を立てているだろうという人はまず皆無と言っていい。極端なことをいう人は、兼業農家でサラリーマンの人、定年になって年金をもらって暮らしている人。年金をもって種や肥やしを運んでいると。できたものを自分で食べて、親戚や友達に分けたり、というようなことが現実です。百姓を専門でやっている人はゼロではないが、どこでも少ないです。約30年前に生産緑地とって、市街化の中で農業をやるというのは、基本的に、昔で言う150坪＝1反の半分、これ以上の面積の時はそれを申請して、市街化のところは宅地並課税で税金が1兆円かかるわけですが、生産緑地の申請を受けると、農地ですから、固定資産税がほとんどかからないです。ちょうど来年で30年ですけど、30年前に申請をした人は、当時50～60代の人です。そしたら今はもう80代です。そうした指定地を皆、市の標識が立っているから見て歩くと、ほとんどが草生やしです。</p>
事務局	<p>やってないんですか？</p>
石田委員	<p>なんとか名目上は草の管理はしているが、そこに作物を作って、やっている人はゼロではないですけど、ほとんどないです。畑でも、米どころでも、耕作放棄とか。今はよく分かりませんが、稲が実っている1月前くらいに水田を見て歩くと、草が</p>

	<p>ボーボーのところがあちこちあります、耕作放棄地です。農業委員会で、少しでも減らすようにと色々な手を打っていますが、話に行くと「俺のところの田んぼ、草が生えているけど、迷惑かけていないから、良いのではないかと、そういうことではなかなか。農水省＝国の方から色々検討して、変な表現ですけど餌と鞭で、「こういういいことがありますよ。こうやりましょう。そうでなかったら・・・」と言って、いろんなことをやるけれど、あまりそれも効き目がない。</p> <p>親から引き継いだ田畑を、今、親が亡くなって相続すると、「もういらない」という人がある、荷物になるから。昔は兄貴の方が多くもらってとか、そういう争いが多かったですが、今は「いらない」って言う。もらってもまた税金を払わないといけないし。昔は血の雨が降るくらい、土地の相続で争いが多かったですが、今は「いらん」と。そういう時代です。農家でも、専門的に、「あなたがやれないのであれば、私がやってあげるわ」と言って、大型の機械を入れて、外国並みとは言わないけれども、普通は小さな耕運機で起こしてやっているところが、犬山でも年間で米を千石以上とる人が何人もいます、集落に一人か二人しかいない。皆さん、「年金で米を買った方が安い」と。事実、種代、肥代、田植え、除草、稲刈り、米を手に入れるときに、買った方が安い、絶対に。だけど総合的に大きくやる人は、トラクターのタイヤでも背丈よりも大きいトラクターで一気にやる。アメリカでは飛行機で種まきをするとか、大きなトラクターで向こうが見えないくらいの畑をやるという。それほどでもないですが、それに近いような。今は田植えもやらない人が多い。直播と言って、モミを直接田んぼに撒いて、強い除草剤を撒く。だから田にはタニシも、ドジョウも魚もいない。昔はイナゴもいっぱいいたけれど、イナゴも一匹もいない。草が生えてこないから良いけれど。例としては、昔はベトナム戦争でアメリカが枯葉剤を撒いて、ベトナムのジャングルが枯れてしまったと。その残留農薬で奇形児が生まれるという。農薬で草を絶やして、農作業としては楽ですが、それが年々蓄積されて、ゆくゆくは口に入っていく、米になって。そういうのが蓄積されると、今でいうアレルギーなんかはそれが原因です。我々が子どもの頃は聞いたこともなかったですけど。本当は良いことではない、合理的な農薬を使って、大きな機械で田畑をやるというの。だけど、現実それでないと成り立っていかないという非常にジレンマがある訳です。皆さんがスーパーで・・・</p>
鈴木会長	石田さんの話、すごく良い話なので、いろいろ聞かせて欲しいですが、今日は、皆に意見を聞かないといけないから、ちょっとここで。
事務局	また周ってきますので。
寺沢委員	<p>地域活動連絡協議会に所属している寺沢と申します。子ども未来課のもとで、色々、児童センターとか、未来園とか、そういうところと関わり合いながら活動させていただいていますが、先ほど人口推移でしたっけ、人口としては74,000人でそんなに問題がないというお話でしたけれど、でもやっぱり高齢者が増えていて、出生率でみたらすごく大きく減少していると思います。だから、見直す必要はないとおっしゃられたけれど、自分も今度出産するにあたって、正直、犬山で出産するから良いということが何かあるか、と言ったら、何もなくて。フランスみたいに祝い金をもらえるとかもないし、別にそれを求めているわけではないですけど、上の子達も、犬山市内の未来園とか幼稚園に通わせていなくて、住んでいるところも、犬山のはずれという理由もありますが、今の未来園とか児童センターに全然魅力を感じなくて。まずは保育士が少ないから、手厚くないとか。どの建物もすごく老朽化していて、この園が良いと思うところは一個もないし、衛生的にも汚いなみたいな。ソフト</p>

	<p>な面は「べびわん」とか、いろいろ努力をされていると思いますが、ハードな面で魅力が全くなくて、そこを、何年後かのために計画をする必要があるのではないかと思います。このまま老朽化が進んで、耐震工事ばかりをとりあえずして、どんどん古びていくのが目に見えている感じがして。</p> <p>取り掛かりが本当に遅くて、私がやっている活動で、「おもちゃ図書館」という福祉会館でやらせていただいている事業がありますが、それは福祉会館がなくなるとともに城東第2子ども未来園に移るということが、一年以上前から市の方から言われていて、我々も準備をしています。城東第2子ども未来園が耐震工事が始まることになったと言われ、「それって前から決まっていなかったんですか？」みたいな。「なんとか4月までには間に合わせますので、その準備をお願いします。」と言っていました。いざ始まってみたら、まったく予定通りに進んでいないようで、利用者さんもいるにもかかわらず、春までに移転できなさそうということで、そういう事業がストップしてしまったりだとか。そういう面でも、計画性が欠けているなと感じます。「具体的に工事はいつ終わる予定ですか？」って、もう4月のことなのに、「まだ決まっています」と言われて。予算を立てて、計画を立てて、実際に事業に移すまでの期間がすごく短いというか、行き当たりばったりな気がして、「補助金が出るから芝生化しよう」とか、「とりあえず芝生化を児童センターやろう」とか、「あとの芝刈はボランティアの人にやってもらえばいい」みたいな。本当にそのときそのときの・・・。</p> <p>本当に犬山市は計画性がないなと市民として感じています。大変なことでしょうけれど、もう少し先を見て色々と計画を立てられると良いのではないかなと感じています。</p>
事務局	<p>2点だと思いますが、計画的に子ども未来園等ハードな面をやって欲しいという点と、魅力ある子育て施策でハード整備は必須だよ、という2点ですかね。ありがとうございました。</p>
佐々木委員	<p>私は犬山市在住のただの市民ですが、お話を聞いていて、農業の話も、子どもの話もすごく面白くて、もっと聞きたいなという感じです。まずさっき言っていた農業のところ、担い手がいなくて、耕作地＝土地が離れてしまうというお話で、実際やりたい人がゼロなのかという、そうではないと思います。お金になるなら仕事にしたいという人も、そこが難しいんでしょうけれど、そういう人もいるでしょうし。趣味みたいな感じで畑をやる人もいます。街の方だとレンタル畑みたいなものもあったりだとか。犬山は、名古屋からのアクセスはそんなに悪くないと思うので、「ドライブがてら畑の様子見に行こう」とか、需要があるのではないかと思います。前の会議でも誰かが言っていたと思いますが、マッチングの問題というか。そのマッチングというのが、市が入るメリットは本当にそこではないかと思っていて、市を騙った詐欺はあると思いますが、市役所自体が詐欺をするとはだれも思っていないと思います。日本は安全な国ではないかと思っていて、市がやっている事業で「だまされるかも」という不安は絶対的にないと思うので、そこに市が関わるのはすごく有益というか、すごくメリットな感じがしました、畑のこととか。</p> <p>畑のこと言うと、教育の分野とか、自分の子供が、どうやってお米が作られるのを知ってもらいたいと親として純粋に思いますし、そういったところとまたがっていくことではないかなと。</p>
石田委員	<p>市の広報でも市民農園を募集しています。「少しでもやってみたい」という関心がある人は応募していただいて。畝8畝とか10畝とか、それでも色々な野菜を作っています。私事ですが、上木子ども未来園の子ども達を3月にはジャガイモの植え、</p>

	<p>6月には収穫、そのあとにトマト、ナス、キュウリ、スイカを植えて、今月はサツマイモの芋掘りを、先生とともに100人くらい来ましたが、みんなリュックを背負って来て、掘ったイモをリュックに入れて、入りきらないやつはビニールの袋に入れて持たせてやります。10年あまり、自分の孫が保育園に行きだしたころから、頼まれてお世話をしてしていますが、7日には犬山西児童センターの親子、30何人が芋掘りに、これも毎年やっていますが、今の子ども達は土に触れるということがないです。それでミミズが出てきた、虫が出てきたと大騒ぎになって、土まるけになって。今月終わりには上木子ども未来園で玉ねぎを600本ほど植えますけど、そういうことをずっと、「やれるうちはお手伝いするわ」ということでやっています。犬山全体から見たらほんの一握りのことですがお手伝いをしています。今の子どもは、米や野菜がスーパーに売られていても、どうやって作られるか、まず知らない。そうやって、土に触らせることも大事だと思うので、今言われたようなことで、市民農園を広報でも募集をしていますので、少しでも気がある人はそこに花を作っても良いし野菜作っても良いですから、親子で土に触れるということを、そういう気持ちのある人からやってもらえると良いと思います。</p>
事務局	<p>そういう人が増えると良いですね。</p>
佐々木委員	<p>そうすると広報の問題とか。あと教えてくれる人＝専門家の方が近くで教えてくれたりすると。やってみたくても、何をどうしていいのか分からないというのがあったりするので、そこはマッチングの部分ではないかなと思います。</p>
石田委員	<p>市で小さい耕運機も貸してくれる。そういったものも、大いに利用してもらって。市のPRも足りない。</p>
寺沢委員	<p>犬山市は比較的、子ども未来園とか小学校は、2学期制になったことによって、そういう機会が増えました。野菜を育てるとか、大概どの保育園も、小学校も子ども達は参加させてもらっていて。何年生はお米作りとか、授業であったりして。おうちにそういう場所がない子もそういうことを学ぶということに関しては色々やっていたいいるなど。地域の方々がいるからこそですけど。</p>
佐々木委員	<p>それはすごく魅力的です。</p>
石田委員	<p>市のPRも足りないかもしれないが、皆さんの関心も。気持ちはあっても、「どこへ聞いたらいいのか分からない」という人も多いと思う。</p>
事務局	<p>そういうところがマッチングにつながる、ということですね。</p>
佐々木委員	<p>空き家バンクも始まったときはすごく良いなと思っていましたが、HPを見ても、この家がどういう家なのか全然分からなくて、金額だけポーンと出てくるので。問い合わせるってなかなかハードルが高いですね。HPとかで、個人のお宅だから出せない部分もあるのかもしれないですが、もう少し情報が出てきたりとか。それが大手の不動産屋とかとは違った形で、市独自の色が出せると、もっと集まるのではないかな。</p>
石田委員	<p>各校区にコミュニティがありますよね。そういうコミュニティをもう少し底辺を広げるような形にすると、そういったものの吸収ができると思います。校区全体でコミュニティをやっていると言うものの、本当に皆さんに広まっているかということそうでもない。極端な言い方をすると、僕みたいなもの好きがお手伝いをしているくらいのもので。</p>
事務局	<p>もう少し裾野を広げるといことですかね。</p>
石田委員	<p>裾野を広げると良いと思います。</p>
鈴木会長	<p>僕も話していいですか？司会を頼まれたけれど断ったのは、いつも司会をやると、</p>

	<p>自分のことが言えなくなるので。皆さんと同じ立場でいたいなど。今のような皆さんの発言を形にするためにも、水内先生にぜひ犬山市民になっていただいて、タウンデザインというか、まちのデザインを絵に描いてもらって、発言をビジュアルから表現するというところから皆で、ああだこうだ言い合って、絵に描いて形にしていくのってすごく楽しいと思います。ぜひそうするべきではないかと聞いていて思いました。</p> <p>一つは最近高山線で、よく高山に行きますが、犬山城が見えるころになると、高山線の中でアナウンスをします、犬山城のアナウンスを。実につまらないです。JRの観点で、しかも録音した女性の声で、キーキー言いながらすごいきれいな英語で話される、文法も正しく。ところが、そんなものはだれも聞かないというか、分からない。つまり、非常に標準的な話題を、そして話法で話をしますが、いろんな国の人が英語を使って、コミュニケーションをする時代ですから、もっと犬山の市民が伝えたいことを犬山の人の英語で語るぐらいのセールスを、これからJRもしないとまずいのではないかと僕は聞いていて思いました。高山に行ったとき、例えばフィリピンの人、デンマークの人、ドイツの人、台湾の人、中国の人、いろんな国の人がいて、みんなそれなりに英語を話すけれど、それぞれイントネーションが違います。ところが、アナウンスの英語はものすごく標準的で、しかもテープで毎回同じことを言っていますから、聞いていて面白くない。</p>
事務局	<p>その点について。発言をさせてください。実は今年度、来年度で、観光戦略を作ることになっていて、そこの中の話でも、犬山は名鉄とすごく密接な関係があるが、JRにも働きかけをしていくべきではないかという議論があるので、先生の今の話はつながっていくなと思いました。</p>
鈴木会長	<p>それから、簡単に2つ目。最近大学生の卒業論文で、犬山を取り上げたいという学生がたくさんいる、困ってしまって。今年3人もう来ていて、そういう学生達は犬山のHPを非常によく見たり、それから、犬山市の企業とか、市民団体とか、FacebookやTwitterもチェックしています。犬山のまち中が変わろうとしているということを、彼らがSNSを通じてだけでも、情報をキャッチして、「犬山に行ってみたい」、「犬山のまちの活動している人達と交流したい」というようなことを言い始めている。それを言っているのはだれかというと、浜松市民とか、あそこも観光地ですから、つまり、観光地に暮らしている人達、若者達が、自分の日常の生活の中から、暮らす市民でありながらまちを良くしていく関係人口、今日も出ていましたけれども、それを増やしていくために観光資源というものを、与えられた観光資源ではなくて、自分達でアレンジしていく、そして日常の生活の中で楽しみを作っていくことをやりたいんだと。そういうことを言っている若い子達が、犬山のSNS情報に非常に心を惹かれるということを言います。本当かな？と思いますが。「来て、見てごらん」って言ってみたくと思うので、もし来たら、皆さん正直な犬山を見せてあげてください。でもそういう町に変わりつつあるというのは、過去あったのかどうか、ずいぶん関心が高まっていて。外からの印象では、愛知県内の観光都市の中では、豊田市と、この犬山市は非常に若者達が関心を持ちつつあるところではないかなと。豊田の方では学生たちが起業をするということを始めようとしていますし。行政と、さっき言った空き家の持ち主と、学生たちで、空き家ベンチャーを作るということ、明日、相談に来るので。犬山でも、若者達がもしかしたらモソモソと動き始めているのかもしれないので、そういう若者の声なき声を拾い上げることをした方が面白いのではないかと思います。</p>

	<p>それから、企業。企業がコミュニティを置く時代ではないかなと僕は思っています。企業というと、従業員が働いて、所得を作って、消費をする。あるいは取引をして所得を増やす。そういう流れはもう古い。むしろ、働き、生活をしていく従業員達のまち中にもっとマーケットを見出して、コミュニティを売る。さっきの石田さんの話にもありましたけれど、おいしいお米を作っているまち、あるいは作ろうとしているまちの犬山を製造業が売る、あるいはスーパーが売るといようなこと。それから、市内を巡回するバスが足りないのであれば、スーパーを走らせればいい。それを市民から募集して運転して走らせる。つまりこれからのインフラ、先ほども話が出た、悪いインフラ、それから充実させるべきインフラというのは、行政だけがやるよりも、むしろ民間が工夫してやれるように促していくということを行政側が働きかけることも大事ではないかと思いました。</p> <p>最後に、毎年ホノルルに行っていますけれど、実は13年ほどマウイ島だったので、最近それをやめて、ホノルルに行っていますけれど、今ガラッとまちが変わってしまいました、2つの点で。1つは、まち中にホームレスがいっぱいです。10年前そんなことなかった。一方で、まち中でファーマーズマーケットがいっぱい行われている。併せて街中でファーマーズマーケットが生まれると同時に、生産者と消費者の顔が見られる関係ができつつある。スーパーなども、アメリカの本土で作ったものを、船で持ってきて販売するというのは、つい10年前にはいっぱいやっていた、ほとんどそうだった。ところが、今は島のハワイ島、あるいはオアフ島、カウアイ島、いろんな島で生産者あるいは漁業者が獲ったもの、作ったもの、これを集めてきて、誰が作ったか、どう売りたいか、どう食べて欲しいか、アピールしながら、コーヒーも、魚も、お米も、小麦も野菜も。ほとんどがそういう方向に大きく流れが変わっていて。</p>
石田委員	地産地消というものです。
鈴木会長	<p>そうですね。むしろ、「地産地産」ですね。地元の人達が生活するためのものは地元で作るぞ！という気概が出てきている。エネルギーもそうです。化石燃料は2045年に全てやめるといふふうに目標を立てているそうです。つまり2045年までにゼロエミッションを達成するために、日々改革をしていると。その過程で雇用の機会を失った人達が街にあふれて、実はホームレスになっている、ということが分かってきました。ですから、犬山も、良いまちを作ろうという時に、非常に苦勞する人達が必ず出てくるので、どこで出てくるかということをしっかり見据えながら、目指すべきまちを市民と一緒に作っていくというふうにするのはすごく大事。で、観光地がもはや市民参加体験交流型の観光地になってきて、質を問う時代になりました。明らかに量ではない。となると、犬山の観光都市作りはどういう点で質を目指すのか。それを、こういう議論の中で探っていくかといけないと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。観光の話が出ましたけれど、おっしゃる通りで、今までの「たくさんの人に来てもらって」というのは、これからはどうなんだろうなというのはあります。やはり、住んでいる人達がそれを良いと思うような観光にしていけないといけない。例えばお金がちゃんと犬山に落ちるとか、住んでいる人に落ちるとか。あるいは、人が多すぎて渋滞になって住みにくいか、そういうのをやめていきたいなと思っています。客単価を上げるとか。あと体験という話もありましたが、今まで通りのお城だけとか明治村だけとか、そういう形だけでなく、犬山はいろんな資源がありますので、それを体験して長く犬山にいていただけるような、そんな仕組みも作っていきなと思っています。犬山市が全部そう思うように頑張っていきたいなというところで、観光戦略を作っているところです。非常に参考になる</p>

	<p>お話をいただきました。</p> <p>何か、ご発言の中で、これに関して私はこう思ったというところがあれば。</p>
水内委員	<p>ようやくまとまって、少し話を聞いている中で、今犬山にとって大事なことってというのは、生の人と人のネットワーク作りというか、そういうことなんだろうなと思いました。統計とかをみると、愛着を持っている人の割合が非常に高い、にも拘わらず、市民参加の割合がむしろ減っているというのは、一見すると矛盾。愛着がある人がいると、市民の参加が増えるというのが通常感覚ですけど、そうではないということが起きているというのは、そこにギャップが生まれてきているんだろうな。愛着があってもまちが好きなんだけれど、でも自分の関わり方が見つけられないという人が多いということですよね。そこを思うと、そこをどうマッチングするかということが今後、大事になると思います。ファーマーズマーケットの話も、そういう場を作る、どういう主体が作っているのか分からないですけど、作ることで消費者と生産者がマッチングされる場ができているということです。最近、他の自治体の人と話をしていて、岡崎市の事例ですが、Oka-Biz（オカビズ）というのをやっていて、先駆的だなと思いますが、いい話だなと思ったのが、ある写真館をやられていた高齢の方がいらっしゃって、その人は廃業したいからとOka-Bizへ相談に行った。そうすると色々な話をしているうちに、その方の腕が良くて、ご高齢ですけど、今なにをやっているかという、遺影をとる専門の写真館として、ものすごく予約が1～2年先まで埋まっているくらいの写真館になっている。廃業の相談しに行ったのにそうなるというのは、そこでマッチングしている人の力だと思いますが、人生の経験を持っている人でしかとれない写真というのが、若いスキルを持った人だけでは出来ないような写真を撮ることができる。かつ腕もいい。「じゃあ遺影をとる写真館をやったらどうか」というアイデアがそこで生まれてマッチングされて、またそういう人がまちにいるということが、今度は価値につながっていく。点と点で、人と人とのつながりを作っていくような機会というのが、今はいるんだろうなと、簡単ではないですけど。その仕組みづくりというものを、行政主体でこれまではやってきたんでしょうが、それをいかにNPOや地域の活動団体、石田さんのような頑張っている方々の手に渡していけるかということが、長い目で見ると話になってしまいますけど、大事だなと思いました。</p>
事務局	<p>ハワイのファーマーズマーケットってというのは、民間の方が経済行為でやっていますか？それとも行政とか政府というか、が主体になっていますか？</p>
鈴木会長	<p>経済行為というか、これまでは、街中のワイキキビーチというのは、おしゃれなブランドが入っているビルのオーナー達が、ガチッと固めて、そういうことをやってはいけなかった、やれる人はいたけれど。ところがそのところをやめて、公共空間をどんどん作って、みんなでもちを良くしていく。例えば自分のホテルでは、ハワイ島で作った無農薬の人参を使っている。ところが、市民の人達はアメリカのカリフォルニアで、農薬をガンガンに撒いて作ったキャベツを食べている。果たしてそれで良いのか。やはりまちの価値というものは、自分の中で最高のものを出しているもの、これをみんなが消費をして生活している、これがまちの価値であろうというふうに切り替えをすることをやって、その結果、農園の人達が、もともと無農薬で色々作っている人達が多かったので、そういった人達が作ったものを販売できる、そういう環境を作っていました。水内先生が言ったマッチングだけでも、事業者そのものがマッチングを働きかけられるようにしていった。そのために行政が大きな計画を作って、さっき言ったゼロエミッションという計画を作って、「さあ皆で</p>

	やれることからやっていきましょう」。では、ホテルオーナーは何ができますか。土地の所有者は何ができますか。公共交通機関何ができますか。今年僕が乗ったバスも電気バスでした。でもその電気は太陽光ではなくて、風力を使って蓄電をしたもの、というふうになってきている。
事務局	なるほど、ありがとうございます。 キーワード的には「マッチング」皆さんのご発言からの中でもマッチングということが出ている。
鈴木会長	ちょっといいですか。「マッチング」ってホントによく使うので。最近、百貨店に行くと、どんな服が欲しいですか、どんなネクタイが欲しいですか、靴はどのブランドにしますか。「コンシェルジュ」っていう人がいます。頼むと、1時間の間に全て揃えてくれる。刈谷市でも、中小企業同士のマッチングを図って、異業種から新しい製品を作るための企業のコンシェルジュっていうのを設けているらしいです。犬山も、マッチングというのは一つの方法なので、それを担う人材という点では、それこそ観光のコンシェルジュとか、農業のコンシェルジュとか。そういう人材を作っていくっていうことは、とっても大事だと思います。
事務局	保育のコンシェルジュとか。子育て支援のコンシェルジュとか。 あと出たキーワードが「広報が下手だ」という（PRが下手）ところもあるのかなという印象を受けました。他に何か。ここを深めておきたいとかいうところ何か。
佐々木委員	もう一個言おうと思っていたことがあって、人口減少のところですが、去年、自殺の対策が市においてきているかと思いますが、働ける人達の盛り上げ方と同時に、さっき先生が言われた通りで、ホームレスが増えたという話も本当にそうなる可能性だってあるなと思って、やっぱり自殺に追い込まれてしまう人とか、職を失ったりする方とかいると思いますが、自殺という、働ける人達が亡くなってしまいう訳で、経済損失という面もすごくあると思うので、そういう方を、いわゆる納税できる形に戻すというというのは、自殺対策としても有効だし、市の繁栄というところにとっても大事だし、出産というところは個人の裁量に基づくところが大きいなど。選択ということが言われるようになってきているので、失わないということも大事ではないかということと、最近、ガンの方が仕事を続けられるようなシステムということも言われるようになってきているので、フォローとかも一緒になって考えないと、ぼろぼろとこぼれているところが出てしまうのはもったいないかなと思いました。
鈴木会長	大賛成。
事務局	引きこもりの人とかもそういう話があるかなと思いますね。
佐々木委員	そうですね。8050問題とかも本当に直面している時代だなと思います。
鈴木会長	さっきの、総合戦略でも、Society5.0に合わせてなんて書いてあるけれど、ITとか技術に長けた人達が、仕事を得て、幸せになってという社会づくりというものが描かれている、総合戦略で。それは決して悪いわけではない、目標としては。やはり家にこもらざるを得ない若者とか、仕事をやめざるを得なかった30代とか。子ども達と一緒に住むことが許されなかったお母さん達とか。いろんな人達が生まれてきているというところに目を向けて、こぼれていかないと言うか、市民が幸せな社会づくりからこぼれていかないような、フォローしていくようなまちであるべきですね。そのために誰が何をやるか。そこそ、皆でマッチングをしたり、話し合ったりということが大事かなと。
水内委員	プロジェクト・ドリブン・デモクラシーというような言葉を最近本で読んで、面白いなと思いましたが、社会の変化がすごい早い時には、トップダウンで物事を決め

	<p>ていくと早いですけれど、いろんな活動をするためには、いろんな人間関係の面倒くささがあつたり、いろんな議論があつたり、個人の事情があつたり、市として遅い、面倒くさい。だけれども、そういう主体によってこそ、社会にとって本当に必要な次への施策みたいなものが生まれてくるのは、こういう面倒くささを経ないと生まれてこないんだと。だから、本当に地域を良くしようと思ったときには、スピード感はもちろん大事だけれども、そういうところを支えるような仕組み作りが必要だということを読んで思いました。プロジェクトとしていろんなものが進んでいくということが、その面倒くささを惜しまないことが、結果、良いまちづくりにつながるんだなと確かに思いました。</p> <p>それからインクルーシビティみたいなことを考えると、いろんなご意見あると思いますが、犬山の中であまり人口が落ちていないということになると、そういうのは都市部以外にはないところで、外国人の数が増えているということもあると思いますが、それをネガティブに捉えるのか、ポジティブに捉えるのかということがあると思いますけど、それをもしポジティブに多様性があつて、インクルーシブのまちということでポジティブに捉えることができるのであれば、そういう状況をどう作っていくかということは喫緊の課題だと思います。外国人への理解もそうですし、それをサポートする。外国のまちーロンドンとか大きなまちですけど、非常にクリエイティブだと思うのは、いろんな多様な人がいて、そういう人達が自分達の声を挙げるができる社会になっているからだと思います。多様性を犬山はちゃんと担保します、という方針を示すというのは、今後、大事なことではないかと思いました。</p>
石田委員	<p>高齢化の問題は日本中どこでも出てくることですけど、定年とかありますけれど、年をいっても、丈夫な人、意欲のある人は、色々公共的なことでもどんどん活用してもらわないといけないと思う。市の行政に関わること、市の職員は定年があつて、それ以降、一線を引いて、それで生活のリズムが狂っちゃって体調を崩す人も事実大勢います。定年後も、市役所ばかりでなく全て犬山市において、丈夫で働く意欲のある人はどんどん、いろんなところでそういう人を吸収しないといけないと思います。そういう施策を。そうすることで健康寿命も延びるだろうし。おおいに高齢者を有効に使ってもらおう企画を。</p>
事務局	<p>活躍の場を。</p>
石田委員	<p>年齢制限はなしで募集をするというのも一つの手だと思います。</p>
事務局	<p>これから、そういうふうにやらないと、手が足りない状況なので、なっていくだろうと思います。</p>
石田委員	<p>あの、自分のことを言つてあれですけど、私も83になりますが、日常生活には支障がないです。極力体を動かすようにしています。</p>
事務局	<p>やっぱり活躍されているからお元気なんですね。 そろそろお時間もお時間なので、ありがとうございました。そうしましたら、いったん皆さん席に戻りましょうか。</p>

(移 動)

鈴木会長	<p>どうも皆さんありがとうございました。時間も迫つてまいりましたので、今日はそれぞれ2つのグループからどなたかにまとめていただくというのではなくて、委員の皆さん一人一人からコメントをしていただくという形にしたいと思います。それぞれのテーブルの中で、ご自身が発言されたことや、聞かれた内容で心に残ったこと、これを皆さんにお話ししたいと思っています。ただ、時間もあまりありま</p>
------	--

	<p>せんので、詳しくはそれぞれのテーブルで出された意見をもってまとめますので、お一人1分以内でまとめてください。よろしく申し上げます。最初に寺沢さん、石田さん。という順番で申し上げます。</p>
寺沢委員	<p>様々な意見を伺って、まずは犬山市が将来のビジョンをしっかり持って、より良いまちづくりをどのように行ったらいいかというのを、今の議論の中で答えが出ていったような気がします。それが本当に実現出来たら、素敵で犬山市になるのではないかと思います。</p> <p>個人的には、子育てにおいて魅力的なまちづくりを望みます。そうすることによって、全体的には減っていく人口でも、「犬山は魅力的だからここで子育てしたい」と思えるような環境になることを望みます。</p>
石田委員	<p>テーマが大きすぎてなかなかまとまりのあるようなお話が出来ません。が、いずれにしても、高齢社会において、皆が健康で1日でも長生きをしてもらうためには、働く意欲のある人は年齢に関係なく、大いに公共機関においても、どんどん活用していただいて、少しでも社会に貢献していただくということも一つの健康市民の増加につながるのではないかと、という話が出ました。私自信もそう思いますし、皆さんもそうだと思います。</p> <p>それから、市の広報でも出ていますが、なかなかさらさらと目を通して、細部において目を通していただくことは少ないのではないかと思います。話が出た中で、家庭菜園みたいなことをやってみたい、といった意見もありまして、広報で募集しているということも、もう少し上手にPRしてもらおうと、皆さんの目に留まり、耳に入るのではないかと。そういう話もありました。以上です。</p>
佐々木委員	<p>先ほど、石田委員が言われたとおり、畑のこととかは広報で、私も広報を見ているつもりですけど、初めて聞いた話もありますし、専門家の方々が色々おっしゃられたことが、本当にそうだなと、お話を聞いていてすごく面白くて。犬山市民が犬山について、専門家の先生達が色々話されていることって、興味深く聞ける内容だと思います。なのでこういった会議の中で、話し合われていることが表に出たりとか、自分達のまちのことをこんなふうに考えてくれているんだとか、企画広報課の方たちがやっている努力とか、そういうことがもっと分かるといいなって。やっぱりPRの部分かなと思うのと、やっぱり発展とともに底上げということも考えていけないといけないかなと。先生の話聞かせていただいて、こぼれ落ちたりする方もいるわけで、病気になっちゃった方とか、自殺される方とか。そういう方も、底上げをすることによって、全体的な経済、健康の維持につながるのではないかなと思いました。ありがとうございました。</p>
中濱委員	<p>途中からの参加でしたけれども、人口減少に歯止めをかけるという点で、これからの世代—自分の子ども世代が、再び子育て世代になったときに、再び帰って来てくれる犬山市になると良いなと思いました。そのためには、なにかしら犬山だからこそ戻りたいと思える特色があることが大事なのかなと思い、具体的には一つ、今ある犬山市のソフト、ハード、強みを生かしたものでできることとして、食育の発展ということを提案してみました。また、それに絡めて市民活動の充足についても勉強させていただいたので、そういう食育面での市民活動に発展していったらいいなと思います。</p>
畑委員	<p>こちらのテーブルでは主に人口減少というテーマだったと思います。交流人口を増やすことが是のか非なのかということだとか、高齢者の方、多文化共生について、子育てしやすい魅力ある町にしたいとか、いろんなご意見が出ていく中で、根底に</p>

	<p>あるのが、私個人のテーマは、人とのつながりだとか世代間交流とかが魅力あるまちづくりの基本になっていくのではないかなと思っています。今日貴重な意見をたくさんいただきましたので、議員としても議会でしっかり議論をしていながら話していきたいなと思います。今日はどうもありがとうございました。</p>
松浦委員	<p>概ね良いまちですけど、たまたま市民活動の数が少ないと出てしまったけれど、市民活動が活発だろうが、登録されている団体の数とかではなくて、みんなが生き生き暮らしていればこんな良いことはないわけで、そちらの方を目を凝らして探していけば良いというふうに思っています。市民がイキイキと暮らすまちがイキイキとしたまちになりますので、私はそのためには、それぞれスタンスが違う人達がありますが、そこで交流を持って、違う意見を伺ったりして、レベルを上げていけばいい。高齢者とか子育ての人達が、疎外感を味わってしまうことがないように、孤立させない。会ってしゃべれば色々な情報交換ができますから、誰一人孤立させないような交流のあるまちになることを望みます。そのためには、出向いて人としゃべること、そう思います。</p>
水内委員	<p>こちらのテーブルでも同じような議論が、もう一つのグループでもされたんだろうなと、聞いていて想像しましたが、私たちのグループもそういったような話が出ていました。</p> <p>私自身が感じたこととしましては、市民意識調査、KPIの達成状況とかを見てみますと、比較的高い水準で犬山に誇りを持っている人が多い。それはすごく良いことですけど、にも関わらず市民活動が活発にはなっていない。そこにギャップが生まれているのではないかと思います。個人個人という話が出ましたけれども、犬山市民の人達の個人の思いというのが、まちづくりにまでまだ接続されていないんだろうなと思いました。NPO団体とか、大きさに関わらず、それぞれ一人一人の個人がまちづくりに参加できるようなマッチングであるとか、接点をいかに準備していくのかが、ひいてはインクルーシブ性の高いまちにつながっていくのではないかなと思います。</p> <p>そこが今回の総合戦略と議論として深められると良いのではないかなと思いました。</p>
中村(昭)委員	<p>65歳以上が非常に多くて、逆に子育てをしている人が非常に少ないというデータが出ている。それは課題だという話ですけども、見方を変えると65歳以上の人というのは、無条件に小さな子供を愛してくれる世代だったり、あるいは子育ての経験を持っている人達です。裏返しだと思っています、そこをうまく活用するように作戦を考えられないのかなと思ったり、たまたま小さな子ども達が少ないので、聞いたら、今世の中で話題になっている待機児童はゼロだと。「犬山は待機児童ゼロですけどそれがなにか？」みたいなことをキャッチフレーズにしてPRしたらどうだ、とか、そんなことを思いました。</p> <p>もう一つ、犬山の特徴である観光戦略で、犬山の城下町に観光資源が集中してしまっている。これは犬山の中で大きな問題だと言われていますが、逆に言えば、他の市町からすると、そこに集中していようが、これだけ外の市町の人を呼び込めているところはそうはない。こんなに大きなメリットがあるのにそれを、課題として捉えるのではなくて、他の市町からたくさん来てくださっているのだから、それをもう少し足を延ばして分散するような作戦を、近くの観光施設が考えられたら、なんか手はあるのではないかなと思ったり。要するに課題の裏返しに、必ずそれは見方を変えたら特徴になる。うちの大学はその昔なかなか学生たちが集まらなくて、</p>

	<p>「犬山にあってなかなか名古屋市内ではないから、学生集めるのが大変ですよ」って言われていた時代がありました。実は全く逆だと思っています。犬山にあるから今のやり方が出来るんだと。だから野球グラウンドも2面、サッカーグラウンドも2面も作れるんだ。そういうPRをしています、物事は裏返しで、犬山の課題が今回の議論の中で分かりましたが、課題の裏側に必ず見方を変えればメリットがあるはずだから、そこを上手く使える作戦を考えられるといいかなと思いました。</p>
鈴木会長	<p>中村先生のお話の関係で言うと、愛知県の大学生達がサッカーや野球の公式戦ができるのは、名古屋経済大学のおかげです。そういう場所を提供していただいている。提供していただければもうできない、子どもたちはスポーツをあきらめてしまう、愛知県から出て行ってしまうということにつながると思います。だから重要な意味を持つことだと思いました。</p> <p>私も一言だけ。犬山市は住み続けたいという市民がいる、若い人からベテランの人まで。犬山には住み続けたいが、市民活動に参加する割合は減っている。そして、犬山への愛着を感じる市民も減っている。となると、犬山には住み続けたいが、暮らしていく上で、目標が見出せない、あるいは楽しみが見出せない、そして愛着を感じるということができづらくなっている。つまりいろんな年齢層の中で、その力が活かされていない、世帯が小さくなる中で無縁化が進んでいるのではないかと。このデータを中から読み取ることができる気がします。市民の無縁化が進んでいるとすると、その無縁というものを絆でつなぎ合わせていく一無縁の中の絆づくりというものを、やはり目標にしていかなければいけないのではないかと。それが愛着や市民活動のデータを見直させる大きな力になるだろうし、住み続けたいという市民のデータを作る大きく変えていく力になるのかもしれない。そんなことを数字から読み取ってみました。以上です。</p> <p>今皆さんに一言ずついただきました。ありがとうございました。お一人お一人の発言はテーブルの中で、事務局が全ていただきましたので、それを取りまとめて、総合戦略の改訂にこういう必要な視点がある、ということ进行分析して、第2回目に皆さんにお示ししていただくというふうにしたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは議事は以上の通りですので、進行を事務局にお返しします。お願いします。</p>

(5) その他

事務局	<p>鈴木会長、ありがとうございました。</p> <p>次第の「5. その他」につきまして、事務局から2点お話しします。</p>
事務局	<p>一つ目は会議の日程についてです。次回は12月18日（水）午後7時からです。改めて、会議の開催通知を今回は資料と一緒に送りましたが、分けて、開催通知だけ先に送りたいと思います。当日の資料は、ギリギリになってしまいますが、開催日の1週間前を目途に送付しますので、よろしく願いいたします。現時点で欠席が分かっている方に関しましては、後程事務局に教えていただくと助かります。</p> <p>もう一点については、ご相談になります、会議録の公開についてです。平成27年から、本審議会の会議録はHP上で公開していますが、公開用の会議録では、A会長、B委員、C委員といったように、実名を載せておりません。しかし会議録と名簿を見比べると、また委員の皆さんの発言内容を見比べると、どの委員がどの発言をしているのか分かってしまうことが多く、実際にはアルファベットで載せている意味がな</p>

	<p>い状態になっています。つきましては、情報公開という観点からも、HP公開用の会議録、こちらにつきまして、委員の皆さんの実名としてよろしいか、ご相談をしたいのですが、いかがでしょうか。</p> <p>では、今回の会議録から皆さんの実名を出させていただきます。よろしくお願ひします。事務局からは以上です。</p>
事務局	<p>これにて、令和元年度第1回総合計画審議会は閉会とさせていただきます。</p> <p>委員の皆様、本日は、誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。</p>

< 閉 会 >